

通し 番号	評価書 分類	大分類	資料区分	ページ	評価書記載の質問事項
1	冷温停止 別冊	耐震	共通	-	評価概要(PPT版)、評価書(p6,p10,p13)、補足説明(共通事項p13)及び補足説明(耐震p10)における地震動(地震力)、模擬地震波、考慮した地震、評価用地震動、基準地震動等の語句の使い分けを説明すること。
2	冷温停止 別冊	耐震	補足説明資料	8	表3の腐食を全面腐食と流れ加速型腐食に内区分して示すこと。また、 の該当箇所を示すこと。
3	冷温停止 別冊	耐震	補足説明資料	10	図2に中越沖地震の観測データの加速度スペクトルとの比較図を示すこと。
4	冷温停止 別冊	耐震	補足説明資料	別紙2	表3-1(2-1の誤記)の設計用減衰定数がKK-5での値(2.5%)と異なる理由を説明すること。
5	冷温停止 別冊	耐震	補足説明資料	別紙3	表3-13の基準地震動による疲れ累積係数がKK-5と比較して大きい理由を説明すること。
6	冷温停止 別冊	耐震	補足説明資料	別紙4	図5-3(4-3の誤記)の地震荷重による応力拡大係数がKK-5と比較して大きい理由を説明すること。
7	冷温停止 別冊	耐震	補足説明資料	別紙5	p5-4の水平方向曲げ応力 bhの発生メカニズムを説明すること。 また、KK-5の別紙6ではこの応力を考慮しない理由を説明すること。
8	冷温停止 別冊	耐震	補足説明資料	別紙6	原子炉格納容器内外の炭素鋼配管の形状図、構造図等を用いて評価対象範囲の抽出理由を説明すること。
9	冷温停止 別冊	耐震	補足説明資料	別紙6	表2で40年想定肉厚の算出条件(冷温停止期間の考慮有無等)を示すこと。
10	冷温停止 別冊	耐震	補足説明資料	別紙7 添付1	表4で基準とする地震動(Ss、Sd等)を示すこと。
11	冷温停止 別冊	耐震	補足説明資料	別紙7 添付1	表4及び表8に不整合があるので、不整合を整理すること。
12	冷温停止 別冊	耐震	補足説明資料	別紙7 添付1	p7-添1-13に記載の x5は運転時の自重しか考慮されていないのではないかと、鉛直方向地震荷重も含むとすると因子(1+Cv)が必要と考えられるため、整理すること(これにより x5'の表記も変わると考えられる。 x21'、 x21'も同様。)。
13	冷温停止 別冊	耐震	補足説明資料	別紙7 添付1	表10記載の 1の適用条件を示すこと。
14	冷温停止 別冊	耐震	補足説明資料	別紙7 添付2	p7-添2-4には発生応力の結果のみ記載されているが、呼び径、 AS評価であることが分かる説明すること。
15	冷温停止 別冊	耐震	補足説明資料	別紙7 添付3	表1に設計許容荷重を示すこと。 また、ボルトの断面積算出のボルト径区分(呼び径 / 有効径 / 谷径)を示すこと。
16	冷温停止 別冊	耐震	補足説明資料	別紙8	表8-1で方針 と方針 の分類に基づく動的機能維持評価の記載文が同文なので差異が分かるように示すこと。
17	冷温停止 別冊	共通事項	補足説明資料	別紙1	p1-98の表1-2(疲労割れ)でのRHR熱交配管の高温水合流部の高サイクル熱疲労割れの扱いを説明すること。
18	冷温停止 別冊	共通事項	補足説明資料	別紙1	p1-98の表1-2(粒界型応力腐食割れ)に <耐震安全性を維持できることが既知である経年劣化事象> を記載する理由を説明すること。 また、炉心シュラウドの周方向溶接線(H6外側)の粒界型応力腐食割れの耐震上の扱いを説明すること。